

問題の趣旨

算数に関する学習内容のうち、身につけた基礎的な力を生かして様々な問題を解決したり、工夫して生活したりする力について調べる問題です。身近な事象について、式・表・グラフや図形の性質などを利用しながら解決したり、算数の考えを使って説明したりする問題が出題されています。

全体の正答率

* 平均正答率とは、ひとりひとりの児童生徒の正答率(全設問のうち何%の設問に正答したか)を平均したものです。

平均正答率は全国と比較して
0.1%下回っています

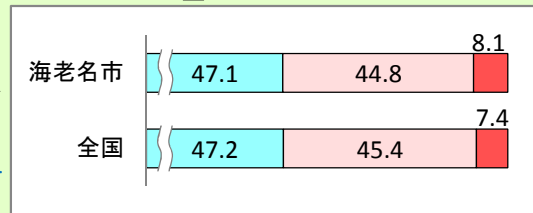
《平均正答率(%)》

	海老名市	神奈川県	全国	全国との比較
算数B	47.1	47.3	47.2	-0.1

誤答の様子は…

《誤答の内訳(%)》

■ 正答 ■ 誤答(書いたが不正解だった)
■ 無解答(何も書かなかった)

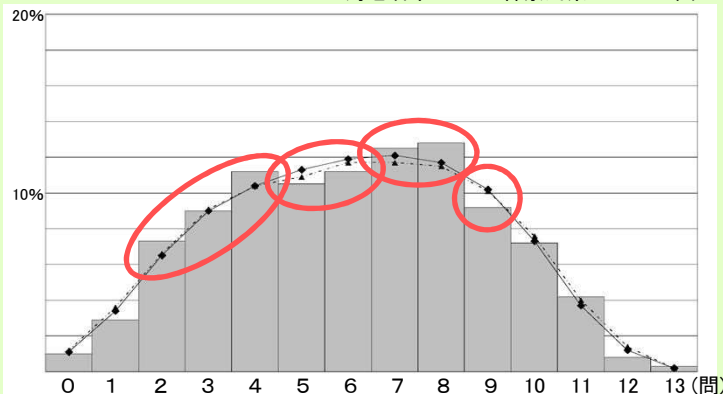


無解答率(何も書かなかった)は8.1%でした。

分布の様子は…

《正答数による分布》

■ 海老名市 ▲ 神奈川県 ◆ 全国



全国と比較すると
正答数が2~4問、7~8問の児童が多く
5~6問、9問の児童が少ないことがわかります

* 正答率50%以下(0~6問)の児童の割合は53.1%でした。(全国は53.6%)

* 正答率80%以上(11~13問)の児童の割合は5.2%でした。(全国は5.0%)

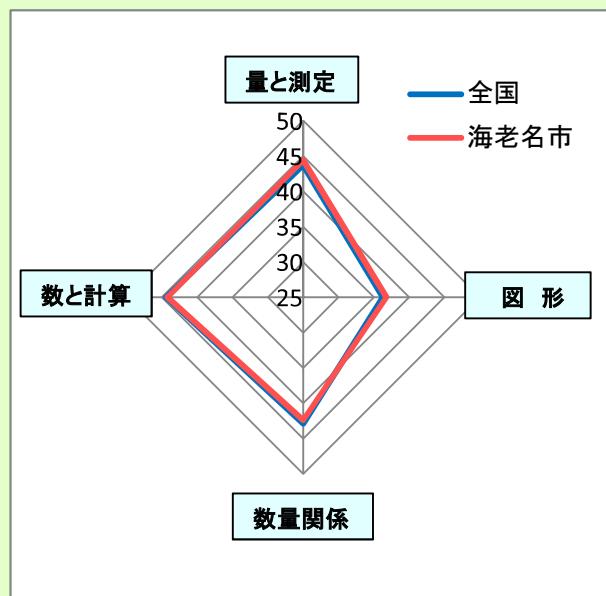
領域別の正答率

「量と測定」「図形」が全国をやや上回っています

	海老名市	全国	全国との比較
数と計算	44.2	44.4	-0.2
量と測定	44.4	43.7	+0.7
図形	36.8	36.3	+0.5
数量関係	42.4	42.9	-0.5

* 「量と測定」については、0.7%上回っていました。

* すべての領域について、1.0%以内の差でした。



内容について

* ()内は、平均正答率の全国との比較

全国を上回った設問

- 正方形の縦の長さを2cm短くし、横の長さを2cm長くすると面積が4cm²小さくなることの説明を書く。(+1.5)
- 中心点を指定された正方形の中にできるだけ大きい円をかくとき、コンパスの鉛筆部分を置く位置を選ぶ。(+1.5)
- 本の貸出冊数について2つの表だけでは読み取れないものを選ぶ。(+1.2)

全国を下回った設問

- 2つの折れ線グラフから読み取った意見が正しくない理由を書く。(-2.4)
- 40mのコースにハードルを4台置くとき、スタート地点から4台目のハードルまでの距離を求める式と答えを書く。(-2.3)
- 3つの式について、それぞれの式が何を計算しているかの説明文を選ぶ。(-1.7)

算数Bで平均正答率が全国を下回った設問の例

グラフから貸出冊数を読み取り、意見が正しくない理由を書く設問 (全国との比較-2.4%)

けんたさんは、右の2つのグラフの、5月から6月までの「物語」の貸出冊数の変化の様子を見比べて、次のように言いました。

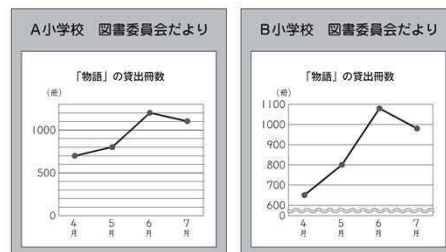


けんた

A小学校に比べてB小学校のほうが、5月から6月までの線のかたむきが急です。
だから、A小学校に比べてB小学校のほうが、5月から6月までの「物語」の貸出冊数の増え方は大きいです。

けんたさんが言っている、 部のごとは正しくありません。
そのわけを、グラフから読み取れる貸出冊数に着目して、言葉や数を使って書きましょう。

正答は省略

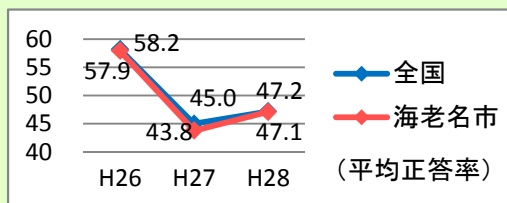


☆算数Bのすべての設問は、国立教育政策研究所のホームページで見ることができます。

考察

- ◆ 全国と比べて、正答数が5~6問、9問の児童が少なく、2~4問、7~8問の児童が多いことから、基礎的な力を生かして問題を解決する力が身につけてきている。
- ◆ 「量と測定」の領域については、全国と比べて平均正答率が高く、身近な事象について式・表などを利用しながら解決する力が身につけている。
- ◆ 「数量関係」の領域については、全国と比べて平均正答率が低く、数量関係を図に表したり図から読み取ったりすることに課題が見られる。

これまでとの比較



- ◆ 平成27年度は全国との差が大きくなったが、平成28年度は差が縮まり全国とほぼ同じになっている。
- ◆ 平成26・27年度は3領域において全国を下回っていたが、平成28年度は「量と測定」「図形」において全国を上回っている。

指導の改善にむけて

- ◆ 「学習した内容を活用する力を高める」ために
 - 数量関係を図やグラフに表したり、読み取ったりして、問題解決ができるように指導する。
 - 話し合い活動を効果的に取り入れるとともに、様々な考え方を説明し、お互いに理解できるように指導する。